

## 「私は税金を使っている」

福岡教育大学附属福岡中学校

塚原 葉月

令和四年、五月。私は、激しい腹痛に襲われた。あまりの痛さにこの日受ける予定だった英検の試験会場に行く事すらできず、母とそのまま病院に行く事となった。診察の結果は、「急性虫垂炎」だった。先生の判断により、そのまま緊急手術をすることとなり、その後一週間の入院生活を余儀なくされた。人生初めての手術に入院と緊張していたが、入院期間中は、看護師さんのやさしい介助もあり、順調に回復する事が出来た。

退院時に、迎えに来た親との話の中で、支払った病院代が少額のものだったと聞いた。内訳は入院中の食事代と雑費分のみであったそうだ。私の親の払った金額は本当にこれだけなのだろうか？ そうだとするのならば、本当にこれだけで入院が出来たのか？ 一週間、旅行でホテルを使ったってそんな金額では到底足りない。ましてや、手術までして・・・いや、そんなはずがない！

請求書を調べてみると、実際は手術費用に 27 万円、一週間の入院費用と治療費を合わせて 33 万円など、合計 60 万円もかかる入院だったようだ。では一体、どこからこのお金が病院に払われているのだろうか？

答えは、私の住んでいる地域が行っている政策である「子ども医療費助成制度」であった。親が加入してくれている健康保険からも一部費用が出ているが、この制度には税金が使われているということを知った。なぜここに税金が使われているかを調べていくと、高額な医療費を自己負担金と保険と助成で分担することにより、保険が破綻してしまうのを防いでいること、安心して子育てできるように国や地域が支えてくれることなどが分かった。

私はよく病院を利用している。皮膚科や歯科、内科など、毎週のように通っている病院もあるが、これらの通院にもこの助成制度が使われている。つまり私は税金を使っているということだ。

今まで考えもしなかった。私が健康で安心して生活していく為に、税金を使っているとは。普段利用している公共の施設や、道路などを作るのに税金が使われていることは知っていたが、こんなに身近に私が直接税金を使っているとは思ってもみなかった。

子どもの私が、使う税金と言えば、お小遣いで買い物をするときの消費税ぐらいで、税金とは大人や企業が「払うお金」の話だと、どこか他人事のように考えていた。しかし、実際は払っているよりも、使っていることの方が遥かに多いことに気付かされた。多くの子どものいのちと生活を助けてくれている税金を、もっと大切に使わなければいけないとも思った。

これから私は大人になり、今よりも税金を納めることができるようになる。私と同じように病院にかかる子ども達のために、私は喜んで納税していこう。